

愛知学院大学歯学部附属病院 口腔外科第二診療部

口唇口蓋裂 診療のご案内

— 生まれる前から大人になるまで その子の一生を見据えた治療を行っています —

愛知学院大学歯学部附属病院 口腔外科第二診療部では、出生前・出生直後から成人期までを一貫して見据えた口唇口蓋裂の専門的治療を提供しております。

患者さんご家族に寄り添いながら、成長に沿った長期視点での治療を大切にしています。

当科で実施している診療内容を以下の通りご紹介申し上げます。

愛知学院大学歯学部附属病院 口腔外科第二診療部長 後藤 満雄

口腔外科第二診療部 口唇口蓋裂担当 宮部 悟

【当科の特徴と治療方針】

1. 出生前診断への対応(出生前カウンセリング)

出生前診断により口唇顎口蓋裂が疑われた場合、当院へご連絡いただければ、ご両親に対して出生後の治療の流れや見通しについて詳細にご説明し、安心して出産を迎えていただけるよう支援いたします。

2. 新生児期:哺乳支援と成長誘導(哺乳床+pNAM(術前顎矯正))

出生直後より哺乳床による哺乳支援を開始し、さらに pNAM (術前顎矯正) によって上顎の形態および唇裂鼻の変形を早期から誘導します。



Hotz 床 (哺乳床)

3. 乳児期(4 か月前後):整容性に配慮した口唇形成術(特に両側裂は一回法)

両側口唇裂ではバランスを重視し一回法での形成術を行うことで、幼少期から外貌の負担を最小限にし、社会性の確立を妨げない治療を行っています。



4. 1 歳半:上顎の成長を守る口蓋形成術

1 歳半で口蓋形成を行い、上顎成長を阻害しない術式を採用して大部分を閉鎖。

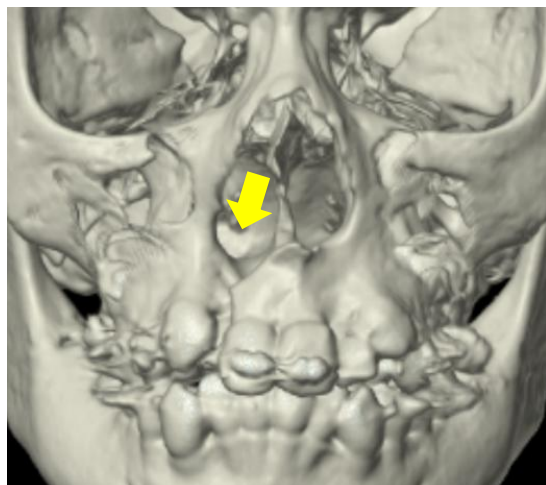
前口蓋の瘻孔は、過度の侵襲を避けるため 8 歳前後の顎裂部骨移植術と同時に閉鎖します。



5. 8 歳前後:将来の歯並び・インプラントを見据えた顎裂部骨移植術

顎裂部へ十分な骨量を移植し、

- 永久歯の誘導・移動を可能にする矯正治療の土台づくり
- 将来の歯科インプラント治療が可能となる歯槽骨の形成に取り組んでいます。
-



6. 10～15 歳:開鼻声(鼻咽腔閉鎖不全)改善のための咽頭弁形成術と言語指導

口蓋裂に特徴的な開鼻声（鼻咽腔閉鎖不全）に対して、積極的な言語訓練を言語聴覚士と連携して実施し、適応があれば咽頭弁形成術を積極的に行っています。

術後はより綿密に言語聴覚士と連携し、正常な言語発達を目指します。



7. 顎裂部インプラント治療の積極的活用

補綴科と密に連携し、十分な移植骨を基盤として顎裂部にインプラント治療を行い、

- 咀嚼機能の回復
- 審美性の向上

が可能です。保険適応となる場合もあり、患者さんの負担軽減にも寄与しています。



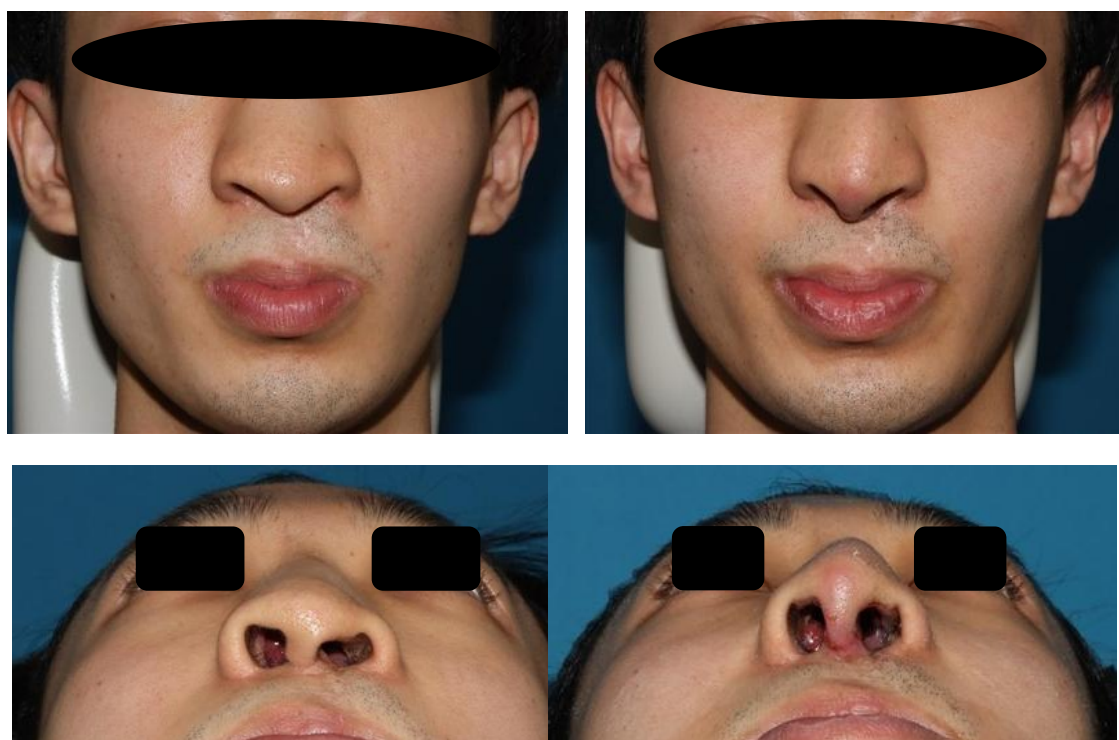
8. 上顎劣成長や下顎前突に対する包括的治療(顎変形症手術)

成長過程で生じる上顎劣成長や下顎前突症に対して、矯正科と連携し、適応があれば上下顎骨形成術(上下顎骨骨切り術)を施行し、より良い咬合・外貌の調和を図ります。



9. 難しい唇裂鼻の修正への対応(特に両側裂)

按鼻を含む鼻変形に対し、30歳ぐらいまでの方には当院外科医と連携し肋軟骨移植による鼻背・鼻柱の再建を行い、できるだけ自然でバランスの良い鼻形態の獲得を目指しています。



【当科の治療理念】

口唇口蓋裂は出生の新生児期はもとより、成人に至るまでの長い時間をかけた総合治療が必要な疾患です。

当科では、「機能」「整容」「成長」「社会性」をすべて見据えながら、他の関連科と緊密に連携した長期的 QOL の向上を目指した包括的医療を実践しています。

【ご相談・ご紹介について】

哺乳指導・術前顎矯正（pNAM）開始のため、出生後できる限り早期の受診が望ましい場合が多くございます。

気になる点やご相談だけでも構いませんので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

愛知学院大学歯学部附属病院 口腔外科第二診療部（口唇口蓋裂治療担当）

担当： 医長 宮部 悟

TEL：052-759-2111（病院代表）

052-759-2160（医局直通）

Email address: smiyabe@dpc.agu.ac.jp（宮部アドレス）